

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

新しい食器で楽しい給食の時間

チェンマイ県のバン・メーランカムスクールでは、給食の時間は全員が給食室に集まり、感謝の言葉を唱えてから、一斉に食事を始めます。子どもたちが全員で食事への感謝を唱えている様子はとても微笑ましく、訪問時にその様子を見ることを、私たちはいつも楽しみにしています。

しかし、今年5月にバン・メーランカムスクールを訪問した時、低学年の生徒が給食を受け取ると、感謝の言葉もなしにみんなバラバラに食べ始めました。外では高学年の生徒たちが待機していました。聞いてみると、食器の破損が著しく、数が揃わないので全員が一堂に会して食べることが出来なくなったようです。学校にはそれを補う余裕がないので、低学年から順にバラバラに食べているとのことでした。

また、女子寮の床がコンクリートむき出しで冷たく、子どもたちの体が冷える上に掃除もしにくいという状況で、女生徒の話を聞くと、床にタイルが貼ってあれば気持ちよく過ごせるということでした。

これらのことを、6月に横浜女学院でお話したところ、秋の文化祭でAWCのためのバザーを開催して、食器と女子寮の床の補修事業を実施して下さることになりました。女生徒から女生徒へ「Girls to Girls プロジェクト」として子どもたちを取り巻く環境を整えたいと思います。

11月初め、横浜女学院の文化祭終了後にバザーの売り上げを届けていただいたので、さっそくタイに送金しました。12月初めに新しい食器を使っている子どもたちの写真が送られてきました。ピカピカの食器に子どもたちの顔も輝いて見えました。女子寮の床も間もなく工事が始まります。



全員そろっていただきます



自分の食器は自分で大切に洗います



食器を持って「はいポーズ！」

マイさん

チェンマイの「愛の家」のマイさんが現在、日本語を勉強するために茨城県の常磐大学に留学中です。11月29日（日）、水戸のマイさんに会いに行きました。英語で話しかけたところ、すっかり日本語が堪能になったマイさんは、勉強は楽しいけれど、漢字が難しい。周りの人が親切で嬉しい。と流ちょうな日本語で近況を話してくれました。もともと子どもの世話をする仕事に就きたいと考えていたので、タイに帰国したら「愛の家」で子どもたちのために働きたいと希望しているそうです。



愛の家の子どもたちと(2015年5月)

マリ・クリスティーン

この留学を可能にしたのは本人の努力も去ることながら、愛の家で代表のキムさんを始めとするスタッフからの手厚い保護の賜物と思います。皆様からのご協力のおかげでもあります。皆様に心から御礼申し上げます。

マイさんからタイで毎週日曜日には教会に行っていたのに、水戸では教会に行けないことが淋しいと聞き、インターネットで検索して一緒に水戸バプテスト教会に行きました。初めて訪問した私たちを加山牧師ご夫妻が温かく迎えて下さり、日本の寒さが辛いというマイさんに布団を貸して下さいました。その夜から礼拝に参加することもできました。クリスマスも楽しく迎えられそうです。1月末までの留学期間が有意義で、楽しいものとなるように心から願っています。

かいこプロジェクト

バンメーランカムスクールでは、2年前から学校内に桑を植えて「かいこプロジェクト」に取り組んでいます。保護者も手伝いながら桑を植え、張り切って始めましたが、去年は桑が思ったように育たず、試行錯誤の繰り返しでした。しかし諦めずに頑張り続け、今年は農業が専門の校長先生を始め、先生方の指導の下、生徒たちは一生懸命に桑を育てこの秋にはみごとに大きくなりました。

現在は、養蚕用の小屋の準備に取り掛かっています。担当の先生が先日養蚕センターへ見学に行きました。養蚕小屋は、今ある農業用の小屋を改築して使用するつもりです。新たに必要なのは養蚕のための棚、網などで、センターの職員に相談しています。設備ができれば生徒たちも蚕センターへ出向き、手順や方法などを学ぶ予定です。蚕の卵はセンターからいただけます。

学校では、この事業がうまく軌道に乗れば村の中にも広げるつもりで、張り切って取り組んでいます。今後が楽しみです。



保護者と一緒に苗植え(2013年6月)



みごとに大きくなりました(2013年5月)

おもちゃに大喜び！！

昨年からはまった「トライブラリープロジェクト」で5月に、バン・メーランカムスクール、希望の家、子どもの家、愛の家の4か所とラオスのルアンプラバンの5校の小学校におもちゃを届けました。

おもちゃが広げられると歓声が上がり、どの子ども夢中になって遊んでいました。子どもたちにとっては初めて見たり、触れたりしたものも多かったのですが、説明がなくても、すぐに遊び方がわかったようです。おもちゃを譲り合い、大きな子が小さな子たちに遊び方を教え、和気あいあいの楽しい時間となりました。子どもたちに人気が高かったおもちゃは、ブロック、竹馬、オセロ、けん玉、まとあて。

届けた先の校長先生や施設の代表者は、おもちゃがあると就学率が上がる。おもちゃを通して子どもたちの創造性、協調性を育て、運動能力を高めたいと張り切っていました。自宅にはほとんどおもちゃを持っていない子どもが多いので、大いに活用されることを願っています。



希望の家(タイ・チェンマイ)

おなかいっぱいプロジェクト

おなかいっぱいプロジェクトは、今年からアーサーパッターナードック財団が運営するチェンマイのドロップインセンター（チェンマイのストリートチルドレンの子どもたちの駆け込み寺）で子どもたちに提供する食事を支援することになりました。

ここ数年、チェンマイのドロップインセンターの支援でスラムに暮らしながら地域の学校に通う子どもが急増しました。子どもたちの保護者は日雇いの仕事で生計を立てているため、子どもに十分なお金や時間をかけてあげることが難しく、子どもたちはおなかをすかせています。保護者の中には深刻な薬物中毒者もいるため、ドロップインセンターの役割はとても重要です。ドロップインセンターに来る子どもの大半は2歳～15歳と、本来ならば毎食栄養のある食事をしなければならない年齢です。

おなかいっぱいプロジェクトに頂いたご寄付は、チェンマイドロップインセンターの子どもたちが学校に行く前に栄養のある朝食を食べることができるよう、学校給食のない休日にも食事がきちんと食べられるよう大切にに使わせていただきます。

書き損じはがき ご寄付のお願い

おなかいっぱいプロジェクト」では、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。

育ち盛りの子どもがバランスのとれたご飯をおなかいっぱい食べられるように、お手元の書き損じはがきや未使用の切手をぜひAWC事務局までお送りください。よろしくお願いします。

AWC事務局：〒231-0015

横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

児童福祉法改正に関する要望書提出

昨年7月に「子ども買春・子どもポルノ禁止法」の改正が行われ、子どもポルノの製造、提供、提供目的の所持に加え、「自己の性的好奇心を満たす目的での」所持が禁止となり、今年7月から施行されていますが、いまだに「着エロ」「ジュニアアイドル」ものとして幼稚園あるいは小学生の子どもの半裸や水着姿の写真集やDVDが公然と売られています。

また、このような子どもたちとの「握手会」や「撮影会」などが開催され、そこに大勢の男性が群がるという、驚くようなことも起きています。

さらに、「JKビジネス」と称する女子高校生等にお散歩、マッサージ、撮影会などのサービスに従事させるような商売も公然と行われています。今年7月に発表されたアメリカ国務省の「人身売買報告書」でもJKビジネスが少女買春の温床となっていることが報告されました。

これらの問題に対して、10月21日に代表のマリと、山本が厚生労働省に赴き、この問題の根絶に向けて取り組んでいる10団体の方々と一緒に子どもたちをめぐる現状について報告をし、塩崎厚生労働大臣あてに「子どもを性の対象とすることを容認しない法改正を求める要望書」を提出し、児童福祉法の改正を求めました。

また、同時期に国連から特別報告者が来日し、日本政府に対して子どもを『極度に』性的に描いた漫画を禁止するように要請を行いました。アニメ、漫画に関して規制反対派は、実在の児童が登場するわけではないので、誰も被害を受けていない、単にファンタジーを楽しんでいるだけだと主張をしています。AWCでは、これらの印刷物が子どもへの性的虐待を助長し、危険を増大させることになるかもしれないという視点で発信をし、法改正を求める活動などを続けています。

子どもが守られる社会の実現に向けて今後も活動を続けていきたいと思っています。

ストリートチルドレンの現状

7月17日（金）18時からAWC事務局でチェンマイのストリートチルドレンの子ども達と10年以上活動が続けている出羽明子さんを講師に招いてセミナーを行い、多くの方がご参加くださいました。

現在ストリートで生活する子どもの多くは、タイ国内で生まれたけれどタイ国籍を持たない山岳民族の子どもや、隣国のミャンマーから家族で移住してきたミャンマー人やミャンマー出身の山岳民族の子どもたちが多いようです。グローバル化がこんなところにも影響しています。タイ語が苦手な子どもが多く、学校に入ったとしてもドロップアウトしてしまうケースも多く、一度ストリートの世界で生活すると、そこから抜け出すことは難しいことです。

出羽さんは、心が傷ついてしまった子どもにアートを使ってライフスキルトレーニングを行ったり、職業訓練を行ったりしています。アートセラピーや財団の様々なトレーニングで再び自信を取り戻し、本人の努力が実って高等教育を受ける子どもも出ています。

私がすぐにチェンマイに行って出羽さんと同じ活動をすることはできませんが、日本で子どもの権利や児童労働について学んだり、学んだことを身近な人に伝えたりすることはできます。みなさまのご寄付も子どもたちの状況を改善することに役立ちます。自分のできることから少しずつ関わっていききたいと思いました。

（AWCユースリーダー 原梓）



参加イベント

- ・横浜国際フォーラム（JICA横浜）2/7
- ・あーすフェスタ（あーすプラザ）5/16・17
- ・AIDS文化フォーラム（県民サポートセンター）8/7・8・9
- ・よこはま国際フェスタ2015（象の鼻パーク）10/10・11
- ・ポレポレまつり2015（本牧いずみ公園）10/24
- ・中区多文化フェスタ2015（横浜市技能文化会館）12/13
- ・国際女性デー（フォーラム南太田）3/8
- ・ふれあい交流の広場（県民サポートセンター）6/30・7/1・2
- ・グローバルフェスタJapan 2015（お台場）10/3・4
- ・旭区民まつり（帷子川親水緑道）10/18
- ・世界AIDSデーイベントinよこはま（横浜SOGO前）11/21
- ・シルキークリスマス2015（シルク博物館）12/13

東日本大震災支援事業

私たちは東日本大震災の支援事業で陸前高田市の子育て支援団体「きらりんきっず」を応援しています。「きらりんきっず」から、近況を知らせる手紙と写真が届きました。

震災からまもなく4年9ヶ月が経過しようとしています、震災直後とは違う課題が多く感じられるようになってきました。なかなか進まないまちづくり、深刻な少子高齢化、家族形態の変様、コミュニティの分断は子育て家庭を孤立させており、人々は疲れてきていると感じています。

そんな中、きらりんきっずは、地域の人々や子育て中の家庭の癒しの場として活動の重要性を感じています。

先日、5年ぶりに「第34回健康文化都市陸前高田市」健康のつどいが開催され、私たちが「キラキラたかた健康づくり賞」を頂くことができました。身に余る光栄です。

健康の定義についてWHO憲章の前文で「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と述べています。安心・安全なおやこの居場所には、人と人、人と地域を繋げるという、なくてはならない大切な役割があるということを感じています。地域の宝である子どもを中心に自然に笑顔の輪が広がり、子どもを取り巻く環境が少しでも良くなるような活動を続けていきたいと思っています。



ご寄付・ご協力ありがとうございました 2014年9月～2015年12月 (敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】 田中雅明、六波羅昭、田邊明彦、小島みゆき、齊藤徹、奥村徹、増井俊樹 巽司 矢ヶ崎佐和子 清水雅子
支援キルトの会ふーぶ 小川優 宮原孝 川辺次郎 伊藤たま江 阿部潔 高橋清実 山本博子 谷口雅昭 佐々木雅祥・律 野澤一良

【おなかいっぱいプロジェクト】 柳原秀子 奥田あずさ 大濱悦子 長島道子 鈴木勇 小島みゆき 武井雅子 甲斐宏 伊藤康子
寺尾和子 齊藤徹 丸山ヨシ子 福島生子 巽司 北爪一夫 山本典子 加藤弘子 鈴木八重子 日比三枝子 五十嵐千恵子 増井俊樹
伊藤香織 黒須春美 矢ヶ崎佐和子 村田順子 支援キルトの会ふーぶ 阿部潔 尾形登志雄 竹内知珠子 川辺次郎 岡部淑夫
朝廣玲子 エツコジュリエットローズ 金子安男 佐々木雅祥・律 原梓 安藤芳子 山本高央 幼き聖マリア修道会

【かいこプロジェクト】 森川洋子 増井俊樹 茶木一城 巽司 佐々木雅祥・律 大野佐和子 五十嵐千恵子 矢ヶ崎佐和子 阿部潔
マリ・クリスティーン 山本博子

【東日本大震災支援】 増井俊樹 阿部潔 佐々木雅祥・律 岡本洋一 矢ヶ崎佐和子 山本佳世 藤田美江子

【トイライブラリープロジェクト】 (財)日本おもちゃ図書館財団 金子安男

【Girls to Girls プロジェクト】 横浜女学院

【AWC基金】 齊藤恵子 赤間幸子 酒井ユリ子 田中雅祐 沖津久美子、佐藤文 横浜女学院 坂口育子 増井俊樹 山本嘉彦
柘植明子 ファイバーリサイクルネットワーク 阿部潔 横浜旭ロータリークラブ 半田あや 八島恵理 高橋誠 竹田英一・啓子
中村田鶴子 板垣慈 川崎伊織 落合貴美恵 安藤芳子 マリ・クリスティーン 山本博子

【キルトの寄付】 支援キルトの会ふーぶ

【書き損じはがき】 高橋誠、藤木マサヨ、笠本雅巳、小松一郎、巽司、畑田房子、長谷信子、伊藤いつき、安藤達雄、山崎範子、
高岡慎、北村雅美、赤塚睦子、柳原秀子、岡本絹江、寺尾和子、森カスミ、小島重喜、森下真理、尾形登志雄、川口幸博、河野雅子、
浦田知寿子、中村田鶴子、大橋真理子、大川春良、北村美千子、内山章、村田順子、川辺次郎、高安照代、岡部淑夫、山本博子、
中川順子、伊藤美知子、北爪一夫、阿部潔、高階志津江、金子セツ子、南恭子、渡辺和美、巽司、大槻裕美、野尻悠紀子、伊東喜代治、
横浜旭ロータリークラブ、熊谷真也、岡田靖子、山崎範子、
半田あや、朝廣玲子、増井秀昭、田口、菅原直子、板垣慈、
ガールスカウト山梨県連盟、安藤芳子、竹田英一・啓子、
増井俊樹、支援キルトの会ふーぶ、芦田利恵、石井敏江、
落合貴美恵、市民活動支援センター

※記入漏れ、間違いなどがございましたら事務局までご連絡下さい。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆さまのご寄付
で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-2-4109

口座名：AWC



発行元:アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39

尾上町ビル9F YAAIC内

Tel/FAX 045-650-5430

E-mail : awc@h6.dion.ne.jp

発行責任者:山本博子 編集担当:安藤芳子、原梓